



ピッチ&フォーラム『モビリティの未来』

1月30日(木)、中経連は中部圏初開催となるピッチ&フォーラム『モビリティの未来』をナゴヤ イノベーターズ ガレージにて開催し、約230名が参加した。概要は以下のとおり。

前半 モビリティに関わる産学官20法人・団体によるピッチ形式のフォーラム

登壇者	主な内容
法人・団体名	主な内容
名古屋大学	○『モビリティ社会研究所』(2019年4月設立)…ビジョン「ヒューマン・セントリック・モビリティ(HCM)」
トヨタ自動車	○トヨタ「モビリティカンパニーへの変革・CASEへの挑戦」○『TOYOTA WOVEN CITY』発表(2020年1月CES)
名古屋市	○『最先端モビリティ都市・名古屋』を目指して…SRT(Smart Railway Transit)構想コンセプト
国土交通省	○『官民ITS構想・ロードマップ2019』○中部のリニアまちづくり・モビリティ懇話会(2017~19年度)
モネ・テクノロジーズ	○日本連合によるモビリティサービス共創…393自治体にアプローチ、『MONETコンソーシアム』約460社加盟
日建設計	○Human Orientedになごやのまちを再生…「都心域」「同周辺」「駅そば」「郊外」等の30年後をイメージ、モビリティは派生需要
名古屋鉄道	○日本一住みやすいまち、訪れたいエリアへ…定住人口・交流人口の拡大を図る ○名鉄版MaaSの実現
デンソー	○モビリティ社会「4つのソリューション」…①Energy Solution ②Safety Solution ③Connected Solution ④HMI Solution
アイシン精機	○コネクティッド技術と車載システムにより人や社会に寄り添うサービス・コンテンツを提供 ○『チョイソコ』拡大
豊田市	○超小型モビリティシェアリング ○地域住民主体の里モビサークル活動 ○次世代モビリティ都市間ネットワーク
春日井市	○高蔵寺ニュータウン実装検討…①限定区域内ラストワンマイル自動運転 ②相乗りタクシー ③基幹交通の自動運転化検討
NTTドコモ	○AI運行バス…①オンデマンド ②ダイナミックルート ③乗り合い ○5Gによるモビリティ連携の革新
中部国際空港	○セントレアを「先端技術のショーケース」に…パーソナルモビ、荷物搬送、FCバス・FCフォークリフトなど
知の拠点あいち	○あいち産業科学技術総合センター(高度計測分析機器・電波暗室・3Dプリンタ) ○あいちシンクロトロン光センター
JFCC	○CASEに適用可能なJFCC技術…①新原理センサ ②パワーデバイス解析・評価技術 ③次世代電池 ④革新複合材料など
産総研中部センター	○未来モビリティと省エネ社会の実現へ貢献する産総研の材料技術…National TeamでGlobal Topシーズを開発
名古屋工業大学	○『名古屋工業大学次世代車載ネットワーク研究所』○『次世代車載ネットワーク研究コンソーシアム』(2020年4月発足予定)
豊橋技術科学大学	○電界方式ワイヤレス給電…ワイヤレスの巨大マーケット「第3の矢」、ドローン・ロボット・電気自動車EVへの適用
中部大学	○「信頼できる自動運転車」実現のための夢 ○『中部大学 機械知覚&ロボティクスグループ(MPRG)』活動(2014年4月~)
ITS-JAPAN	○『ITS世界会議ロサンゼルス2020』(2020年10月4日~8日)スタートアップ向けイベントの紹介

フォーラムでは、「自社に関わるモビリティに関する夢」をテーマに5分・10分間隔で登壇者がスピーチを展開し、夢を語った。続いて、名古屋大学未来社会創造機構の森川高行モビリティ社会研究所教授・畔柳滋客員教授を交えてディスカッションを行った。主な内容は以下のとおり。

- 登壇した方々が同じような構想・ねらい・思いを持っていることが分かった。今後は産学官の連携を強化・結集し、国家予算を獲得していくなど相乗効果を高め、新たな価値を創出し、産業の活性化につなげていきたい。
- 同じような実証実験に取り組んでいる点に関して、活動を融合・棲み分けすれば一気に加速していく可能性がある。

- 研究においては「真のオープン・イノベーション」が必要。昨今の国が支援するプロジェクトなどでは、言葉としては謳っているものの、実際には企業間の牽制で研究が進まなかったり、少し芽が出た段階で自社のクローズ分野に囲い込むような動きが見られる。また、「産産学学連携」(複数の産学コラボ)とも言われるが、真の連携ができ





ているかを見極めたうえでの適切な研究マネジメントが重要である。

- 中部圏のスタートアップ・イノベーションへの取り組みにおける「ダイバーシティ」は進んでいない。本日の参加者もほとんどがダークスーツ。北欧のピッチイベントでは女性や若手が半分を占め、質問は収拾つかないくらいに殺到する。名古屋大学では多くの留学生が「モビリティ」をキーワードにチャ

ンスを求めて来る。一方で、国内の県外から集まってくる人は少ないのが現状。何とか改善したい。

- 大企業としても、従業員数名の小さな会社からの斬新なアイデアには大いに期待している。小回りが利く面を有効に生かしていただきたい。一方で、独りよがりにならないよう社会的課題を客観的に捉え、ゴールまでの道筋を明確にして取り組むこと、「やり切る信念」を持つことが重要である。

後半 「Plug and Play Japan監修」国内外16社のスタートアップによるピッチ

登壇者

法人名(国籍)	主な内容
株式会社フレクト(日本)	○リアルタイム車両動態管理のCariot(キャリオット)の提供
FleetOps(カナダ)	○AIと車両データを活用したトラック運転手と運送貨物のマッチング
Autofleet Ltd.(イスラエル)	○保有車両向けVaaS(サービスとしての車両、Vehicle as a Service)プラットフォーム
株式会社エーエヌラボ(日本)	○画像AIで業務の自動化・効率化のソリューション
Ministry of Movement Pte Ltd. (シンガポール)	○オンデマンド型の共同モビリティサービスの提供
株式会社Keeper(日本)	○介護タクシーの配車サービス
株式会社nommoc(日本)	○新しい移動文化を創造すべく"無料の移動サービス"を生活者に提供
UbiPark Pty Ltd.(オーストラリア)	○車内モビリティ・ソリューション(パーキング)の開発
BaseTrack Technology Ltd.(エストニア)	○大型トラック・貨物物流会社向けの自動運転技術
AutoX Technologies, Inc.(北米)	○レベル4の自律走行に特化した自動運転技術
Whip Mobility Sdn Bhd(マレーシア)	○オンデマンドのディーラー・サービスの提供
Xenon Automotive India Pvt Ltd.(インド)	○コンピューター・ビジョンを活用した車両の損傷評価
Intellicharge Ltd.(英国)	○高性能なEV充電ソフトウェアの開発
NanoFlowX(米国)	○電子機器を保護する世界最速のナノコーティング
株式会社エスイーフォー(日本)	○通信遅延に影響を受けないロボット遠隔操作技術
株式会社Luup(日本)	○電動マイクロモビリティのシェアリングサービス

ピッチでは、Plug and Play Japanが厳選したスタートアップ16社のプレゼンを参加者およびフォーラムの登壇者が聴講した。16社のうち、海外企業が10社を数え、グローバルなイベントとなった。また、

ピッチ後にはNet Working・交流会を実施した。

ほとんどのスタートアップから「中部圏を拠点とする企業とつながることができた」とのフィードバックがあり、今後、具体的商談へと進む者もいた。

モビリティは、中部圏のみならず、わが国を支える基幹産業である。中経連では、今後も継続してピッチ&フォーラムのイベントを開催していきたい。また、今回のフォーラムを通じて意識が高まった「産学官の連携強化」については、産業・技術委員会の場で、森川教授・畔柳客員教授とともに取り組んでいく。

(産業振興部 黒柳 考司)